



「抜本的コロナ対策を」「改憲許すな!」をスタンディングアピールする総がかり行動実行委員会 (写真提供 赤旗写真部)



No. 551

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
E-mail
chian@bz03.plala.or.jp

頒価 50円

新型コロナ危機から国民の命と暮らし・生業を守ろう 改憲を断じて許すな!

主な記事

- 私も一言／増田剛・全日本民主医療機関連合会会長…………… 3
- 新型コロナウィルス感染拡大とのたたかい 吉田万三…………… 4
- 顕彰碑／作家宮本百合子「抑揚の野」碑…………… 5
- 抵抗の群像／須藤五郎・宝塚歌劇団指揮者から参院議員へ…………… 6
- 同盟文芸／短歌・俳句・川柳…………… 7

新型コロナウィルス感染の爆発的拡大で医療現場の崩壊、国民生活は重大な危機に直面しています。命がけでコロナとたたかっているみなさんに心から敬意を表します。

安倍政権に対し、新型コロナ危機から国民の命と暮らし・生業を守るための財政的支援を強く求めるものです。

安倍政権は、火事場泥棒的に、憲法に緊急事態条項創設の議論を衆議院憲法審査会によびかけました。また、検事長など検察庁幹部の人事を首相官邸が握る検察庁法改定案の審議入りを強行。公的年金の受け取り開始を75歳まで引き延ばす年金制度改正案も審議入りしました。改憲を断じて許してはなりません。

中央本部は電話三役会で5月14日の国会請願の延期、5月28日常任理事会、6月11日中央理事会の延期を決めました。

いま全国では、コロナ禍でも三密（密閉、密集、密接）を避け、知人への手紙、電話、FAXなどで署名集め、会員拡大の経験も生まれています。同盟の新年度は4月からです。新年度会費納入を1日も早く訴え、全会員から集める手立てを尽くしましょう。

新刊の『治安維持法と現代』20年春季号には増本一彦会長の「2020年代に国会請願要求を実現して『治安維持法体制』による国の責任に決着をつけよう」が掲載されています。この論稿の一大学習を起こし、コロナの災いを転じて同盟活動に希望と確信を持つようではありませんか。

コロナ禍に負けず請願署名と会員拡大 自主目標達成をめざす各県の取り組み

千葉 約半月で40人を拡大

何もわからないまま先輩に誘われ同盟の事務局を引き受け半年が過ぎました。率直に思ったのは、財政も組織も十分に把握されていないことでした。そして迎える4月1日現勢。架空とも言える数字を報告することはできず、会費納入の実態を含めた会員の把握と整理を行ない、このままでは三桁に近い減員となります。

そこで3月の三役会議でこうした実態を真剣に議論し、「これからはスタート」と位置づけ、三役の責任で400人までは回復しようと思志統一。多くの地方議員が未加入となっており、手分けして訴え、約半月で40人の会員を拡大し386人まで回復しました。

さらに4月の三役会議では、中央に報告している現勢に到達するため、5月の会議までに新たに31人の目標を掲げました。

会員には高齢者も多く「今月で退会」の連絡もあります。こうし

た会員に「本当にありがとう」「お疲れさまでした」と感謝をいえる組織にしたいと思っています。

和歌山 労組の協力による成果

2月以来のコロナ旋風で和歌山にもさまざまな影響が出て来ており集会での署名がほとんどすべてが空振りになりました。

2月20日に予定していた映画「明日へ」の主催団体として相当頑張っていたところですが、これも中止せざるをえず、赤字を抱え真に草臥れ損を味わっています。

一方で署名を依頼していた幾つかの労働組合から「署名」が来てきました。

5労組で650筆が寄せられました。2月の伸びの主たる成果はこの労組の協力によるものです。

近年、労働組合に協力いただくことがだんだん難しくなってきたり、あるなか、貴重な成果だと思っています。一方なかなか進まない全会員参加の運動をすすめるために

増本会長のアピールを増刷して「不屈3月号」に添付して全会員に渡るよう手立てをしたところですが、新型コロナに負けないようがんばります。

滋賀 1人10筆を呼びかけ

滋賀県本部の国賠署名は3月末に、5000筆目標の過半数を超える2778筆に到達しました。

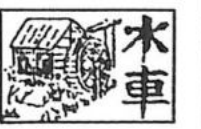
「国賠署名は国民のあいだに人権意識を高める活動」と位置付け、2月の遅れを取り戻す支部の努力があったからです。昨年同期を62筆上回る結果となりました。

1141筆を集めた大津支部は、「あと1人10筆集めて1800筆達成を」と全会員に手紙を付けて改めて署名用紙を届けています。

1人でも多くの会員が署名に取り組みすることを重視しています。各支部でも会員への声かけを進めています。今年こそ目標を達成したいとの思いでがんばっています。

3月の会員拡大は4人でしたが、声をかけると気軽に入会してくれているのが特徴です。

(3ページにつづく)



新型コロナウイルスの感染が地球全体に広がっている。失われていく多くの人命と未曾有の経済危機に、あまりに「臆病で遅い」日本政府の対応に不安と怒りが走っている▼アベノマスク、犬を抱いて優雅にくつろぐ総理動画、現金支給の朝令暮改劇を「悪評三ツ点セット」とささやかれる。モリ・カケ・サクラ疑惑に加え、森友学園事件で自殺した公務員の遺書をめぐり総理・財務相の醜い対応に世論が炎上している▼コロナ退治に緊急事態宣言が出されたが、緊急事態条項を作るための憲法改正が必要という輩もいる。やるなら、1機100億円余の戦闘機の爆買いをやめてその金を犠牲者の生活補償に回したらどうか▼困難に打ち勝とうと坂本九の「上を向いて歩こう」が静かに歌われている。人々が家に閉じ込められ、経済活動が縮小されて、野生動物が町に現れ、水や空気がきれいになったとも伝えられている。今後の社会や地球環境を考える機会にしたい。(澤)

(2ページからのつづき)

県本部は、同盟の存在意義に確信をもって、幹部先頭に入会を訴えようとよびかけています。

神奈川 現代政治の歪みを訴え

川崎支部の幹事宅ポストに署名10筆が届いたのは、3月号「不屈」に署名用紙を同封で発送した数日後のことでした。

こんなに早くに訴えに応えてくれたことに感激して、送り主の片

平尚良氏にお礼の電話をしました。片平氏がおっしゃるには、「本当は日頃からこの署名をしなければ、と思っていたが、次から次へやるべき署名が来て手が回らなかつた」

「今回署名用紙を送って頂いたのが良い機会だった。訴えも読んで、訪問しながら署名を集めることが出来た」

「いろんな社会不正義の諸悪の根源は、治安維持法にきっちり向き合い、反省し、戦後の解決をつけなかったことにある。それがこの国の進路を誤らせていると思っているで、この署名を集めながら知人に訴えをする」とに意義を感じている。新型コロナに十分注意しながら頑張ります」ということでした。

そして、治安維持法の不正義と現代の政治の歪みを訴えて、署名活動をするつもりだから、署名用紙をもつと送って欲しいとのこと、数十枚をお送りしました。

(神奈川県本部・山崎雅子)

秘も一言

の?と尋ねられました。夜その報告を聞いた父の険しい表情をよく覚えています。

ある時「お父さんは何しているの?」

1960年代半ばの話です。鍵っ子だった私は共働きの両親が出かけた後に鍵を閉め保育園に向かう途中、いつも同じ男が居るのに気付くようになり、ある時「お父さんは何しているの?」と尋ねられました。

増田 剛

でも表現されているように、こうした監視は今も行われている



昨年85歳で亡くなった父は1933年生まれで10代から共産党活動家でしたが、青年時代に偽の容疑で逮捕された経験があります。当然すぐに釈放されました

に違いありません。治安維持法の根底にある邪悪な思想は時代を越えて私たちの身のまわりに住みついていきます。いつの世も人権を護るためにはたたかひが必要で、頑張りましょう。(全日本民主医療機関連合会会長 埼玉共同病院院長)

沖縄 コロナにも、辺野古新基地強行にも負けず

新型コロナ問題が広がるなかでも、工夫しながら署名活動をすすめています。目標1500筆にたいて、現在857筆、昨年実績の1120筆まで263筆です。

感染者が出ていない宮古島では、会員が署名用紙をコピーして78筆の署名をあつめてくれました。

新婦人県本部は新婦人新聞読者に署名用紙を折込み、ある会員は3000円をそえて署名を寄せてくれました。3月には県内の民主団体を訪問、治安維持法で弾圧・投獄された人たちの資料もそえて、署名への協力を訴えました。

沖縄組那覇支部は執行委員会を開いて討議、個人署名もふくめて郵送してくれました。現在、団体署名は17団体、法律事務所や6月の県議選挙を取り組んでいる共産党の各事務所も、辺野古で工事の作業員が感染し、県民は「コロナが収束するまで工事は中止を!」

県議選与党勝利で知事を支え辺野古を止めよう」と闘っています。(沖縄県本部・村山純)

4月7日に、新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態宣言が出され、外出自粛など日本中が大変な状態になっている。感染拡大は、7/8割の人が感染して自力で抗体をつくり、免疫を獲得すると収束に向かうと言われている。免疫を獲得するためには、自力で感染後に回復するか、ワクチンの接種しかない。新型コロナウイルスへのワクチンの開発は1/2年かかると言われている。したがって、問題はこの1/2年をどう乗り越えるか、である。

われは、実効性のある自粛要請には、検査体制と経済的補償は大前提の条件である。政府の責任、小池百合子都知事の責任は重大。この対策の遅れは、無能な政府の中でも最大の失策である。医療崩壊は不安な検査希望者が押し寄せて起こるのではなく、誰が感染者かわからないまま医療機関が感染源になったり、軽症のうちだつたら手が打てたのに、重症になったりからの患者が増えてしまつて起

新型コロナウイルスの感染拡大下のたたかい

中央本部副会長 吉田万三

き始めている。小池都知事も変なマスクの安倍首相と比べると、まだまじに見えらるが、3月半ばまで「オリンピック完全実施」と言ってみたり、感染拡大のさなかに公的医療の拠点となるべき都立病院の独立法人化(完全民営化への第一歩)を進めたりして、肝心な対策が立ち遅れた責任は重い。100年に一度の疫病の世界的大流行で市民社会(民主主義)の力が試されている。

まず私たちは、4年に一度のオリンピックどころではない。100年に一度の大災害に現在遭遇しているという認識が必要である。100年前にもスペイン風邪というパンデミックがあったが、100年前の世界は、第1次世界大戦やロシア革命の時代で女性には参政権も無かった。ということは、今回のパンデミックは、未成熟を抱えつつそれなりに民主主義が定着し、市民社会が成熟しつつある時代がはじめて経験するパンデミッ

クといえる。私たち自身の自覚的かつ自発的な団結や協力の能力も問われている。失敗や誤りに向き合わず、情報の隠蔽や改ざんを許したままでいると、発達した情報技術等を使つたより強権的な独裁者を生み出す危険すらある。同盟の立場からも注意が必要である。それなりに長い持久戦での同盟のたたかい方

る人がいるなかで、1/2年の持久戦はそれなりに長い。その中で市民的諸活動を途切れさせずことなく維持・継続させることは、どうしても必要なことである。みんなが知恵を出し合おう。時代は変わる、「命の安全保障」が政治の基軸に。このパンデミックに、新自由主義はまったく闘うことはできなかった。ミサイルや核兵器もまるで無力だったのである。これだけ多数の死者を出し、多くの人が命の危機を集団的に経験したことは、次の時代の在り方を選択するうえで基準になるはずである。コロナ後には世界的不況が待っていると言われているが、次の時代は、「命の安全保障」を政治の基軸にしなければならぬ。水、食料、空気、医療、介護、教育など、命にかかわる領域は原則として金儲けの対象にしてはならないのである。

(東京都本部会長・歯科医)

顕彰碑 探訪

作家宮本百合子文学碑 「抑揚の野」

「抑揚の野」の碑文には、「日本が未曾有の混乱に見舞われた敗戦を鮮烈に描いた/名作『播州平野』は、姫路の小さな『しもたや』から生まれた/ここから東約二〇メートルにあった『まつや』に泊まった女流作家宮本百合子は/瓦礫の中に姫路の城、町の人々のうちに輝く明るさを見つめる。『播州の平野』には、独特の抑揚があった」と表現したのである。/この文学碑は「まつや」が老朽/よつて取り壊されたおり/名作をしのんで建てられた」

へ向って道中する。重吉に向って、進んでゆく。ひろ子には、その時代おくれののろささえ快適に感じられた。ひろ子が住みなれている関東平野、東北本線で見なれている那須野あたりの原野とちがって、播州の平野には、独特の抑揚があった。(中略) その荷馬車に荷物だけつけて、自分たちは国道を歩いて来る二人の若者があった。(略) 二人とも元氣な、齒の美しい若者同士である。ちよいちよい冗談を云い合つて笑う。彼等の言葉は朝鮮の言葉であった。ひろ子が、この旅の行き来で見かけた朝鮮人たちは、すべて西へ西へ、海峡へ海峡へ、と動いていた。だがこの若者たちは、東へ向っている。「『播州平野』より) 百合子の解放への思いと朝鮮人青年たちの新たな活動のスタートが連なる。(兵庫県本部副会長・田中隆夫)

《本の紹介》 近代沖縄の民衆運動 安仁屋政昭著



沖縄の民衆運動はまさに反戦平和の「源流」。その源流は、本土に渡つた沖縄県人の人権蹂躪に対する抵抗にあった。この流れを見れば、平和憲法の人権の仕組みがよくわかる。人は個人として尊重されるべきである。差別されたり、虐げられてはいけない。そのために、人は集会を持ち集団を創る。そして訴え抵抗するのだ。「職工求ム、但シ、朝鮮人、琉球人、オコトワリ」。働く権利の闘いは、差別との戦いであり、労働組合結成の契機であり、結社の自由、思想信条の自由の獲得を意味した。本土の沖縄県人会は、単なる親睦団体ではなかった。県人に対する不当な差別と闘い、生活と権利を守るため、必然的に労働運動と結びついたのだ。闘わなければ要求実現や権利獲得はできない、切羽詰まった状態であった。

公衆に政治参加を広げた普通選挙法と集会や結社等を厳しく取締まる治安維持法が同年に定められた。この意味と動きがよくわかる一冊。高良鉄美(参議院議員・憲法学者) 「職工求ム、但シ朝鮮人、琉球人オコトワリ」のはり紙に見られるように、沖縄出身であるというだけで就職の道をふさがれることになり、たいする青年労働者たちの怒りは想像以上のものがあった。それは広津和郎の小説「さまよへる琉球人」(『中央公論』1926年3月号)にたいする抗議書に見ることが出来る。沖縄青年同盟結成大会は、この小説が出稼ぎ青年労働者におよぼす悪影響を指摘して広津和郎に抗議文をおくつた。広津はこの抗議書の全文と沖縄青年同盟にたいする回答を同年5月号の『中央公論』に発表し、以後この作品を絶版にすることを声明した。(本書29/30ページ)



「こういう秋の午後、思いもかけない播州平野の国道を、荷馬車にのつて、かたりことりと東

進む百合子。 獄から解き放された夫に向かつて、夫の実家山口県から、台風で止まった列車にかわり、荷馬車で進む百合子。 「こういう秋の午後、思いもかけない播州平野の国道を、荷馬車にのつて、かたりことりと東

定価 1600円+税 あげぼの出版 TEL098-861-9145

定価 1600円+税 あげぼの出版 TEL098-861-9145

抵抗の群像



音楽を愛するが故に
政治変革の道へ

須藤五郎
サどうごろう

「社会主義万歳」で初検束

須藤五郎は1897(明治30)年の9月14日に三重県志摩郡鳥羽町(現在の鳥羽市)に生まれた。家は代々、鳥羽藩の代官を勤め、父親は永く町長をしていた。日清戦争終結後、それ以前の自由民権運動に代わって、民主主義的、社会主義的な自由思想が再び力を得るようになりキリスト教の伝道も盛んになった。

京都・宇治山田中学に学び、小さい頃から音楽が好きだった須藤は教会に通い賛美歌を愛唱するうちに「賛美歌によって洋楽に親しみ、悩み続けた人生、人間愛というものを伝道者の心の暖まる社会救済事業その姿によって、めざめさせられた私が、好きな音楽をもって、少しでも人生に生きがいを感じたい、音楽で貧しい人々の心に慰めを与えたい」と思うようになった。

る。

親兄弟の反対を押しきり1919年、東京音楽学校(東京芸大音楽学部の前身)に入学するのだが、入学のための準備として1年ほど神田一ツ橋の同校分教場に在学する必要があった。

この時に朝鮮の学友の兄から朝鮮の三・一独立運動の話聞き、「音楽学校の入試に落ちたら、朝鮮に渡るぞ」と話し合うほどの感動を覚えた。

また、社会主義者の講演会を聞きにいき、会場は「弁士中止」「解散」で混乱。おもわず椅子の上立ち上がり「社会主義万歳！」と叫び、初めて神田署に連行され夕方箱泊りとなった。その後、20年の日本初のメーデーから毎年メーデーに参加し、その夜には毎回留置場泊りになったという。

23年、東京音楽学校(東京音大)の講師となるが、9月の関東大震災で同校は焼け野原となり、朝鮮人や労働者が惨殺され、音楽教授法の研究で兼務していた渋谷の小学校の教員を追われることになった。

そして24年、兵庫県にある宝塚音楽学校に赴任、大阪府豊能郡浅田村に住み、「宝塚歌劇団」に入社した。

歌劇団の指揮者から共産党国会議員へ
「宝塚少女歌劇」は京阪神急行電鉄株式会社(現在、阪急電鉄)によって14年に創設された。社長小林一三は近衛内閣の商工大臣になった人で、当時の次官に岸信介がいた。

須藤は歌劇団で音楽指揮と作曲を担当、28年、宝塚劇場機関紙『歌劇』の編集部員から『戦旗』の配布を受け、関西学院学生の西村欣二をリーダーにした読書会に参加してきた。さらに、依頼を受け氏名も聞かず日本共産党の幹部をかくまったりした。西村のすすめでモップル(赤色

救援会)に加入し、モップルと党に資金約500円を提供した。30年2月24日、共産党シンパサイザーとして検挙、3月22日起訴される。8月16日保釈出獄。31年5月14日、一番で懲役1年6カ月・執行猶予4年の判決だった。

32年1月、小林に呼ばれ「投獄されるようなことはせず仕事を」と頼まれ、復職した。

戦後の46年、宝塚歌劇団労働組合を結成、初代委員長。全国で労働組合の結成と運動が進展する中で労働歌が次々と生まれ、須藤も海員組合歌や「嵐よ吹け」などの作曲にたずさわった。

勤労者の会費制でよい音楽を安値で聞く運動が起こり、49年大阪勤労者音楽協議会(労音)が結成され、初代会長となった。翌50年共産党から参院選挙に立候補し当選して以来4期24年、参議院議員として奮闘。88年に91歳で死去した。
(須藤五郎著『歌と革命と』他参考)
(大阪府本部長・松本洋一郎)

同盟文芸

短歌

碓田のぼる選

帰郷せしフォトグラフアアの吾子なれば両親も茶畑に睦まじいポーズさせられ 鳥取県 大久保禮吉
かく恐怖幾たび越えしか人類の歴史を想うコロナ禍の中 岐阜県 田中 良
感染のゼロは安心と山陰へ旅行に來たる家族連れ居る 島根県 小玉 信恵
人混みを避け車内より桜見ておにぎり食べてドライブ終る 岐阜県 和田 昌三
空地にはコロナを余所にたんぼの今を盛りに花咲かせおり 埼玉県 福家 駿吉
満開の桜の幹へ小リス入るコロナ世界知るよしもなく 静岡県 江川 佐一
おかあちゃん鏡の顔に呼んでみる今しみみと八十路を生きて 奈良県 大森富士子
コロナ禍に軍備役立たず国民の「安全保障」は世紀の課題 埼玉県 小室 仁彌
今挑む相手は「新型コロナ」なり迷わず糾さん知力傾け 岩手県 小杉 正夫
子や孫に残しやるのも何もなしただ戦なき世に余生捧げん 兵庫県 岸本 守
(選のあとに) 大久保作品、一家のほほえましさ溢れる。コロナにかかわる投稿歌多し。いずれも、作者のさまざまな生活の立ち位置で、この姿なき敵とのたたかいでの、人間的な声をあげている。コロナを概念的ではなく、生活と結びつけて具体的にどう歌うかが課題。

俳句

望月たけし選

光る風躍る春来いコロナ去れ 兵庫県 岸本 守
コロナ裡に浮かぶ一首や啄木忌 埼玉県 小池 荘八
春の闌眠りは深し明日に向け 神奈川県 天野三葉子
伊江島の天地の化育黍植う 岩手県 畠山 文裕
梅咲いて祝う三陸鉄道路線再通を 三重県 橋本しげる
(評)一句目、従来の句作の約束にとられぬ強い思い。新型コロナ対策は、今の政治の迷走を反映しつつ終息まで長いたたかいになりそう。五句目はあれから九年、「三鉄再通」をよるこびたい。
川柳
ウイルスが格差社会を炙り出す 埼玉県 福家 駿吉
(評)アメリカでも感染者・死者の8割ほどは貧困層。いつの世も割を食うのは貧しい者だと改めて思べし知る。
ベッド増やせ何故に言わない専門家 大阪府 堺谷 九条男
都知事さんテレビ出演自粛して 東京都 中村 茂樹
弱い国狙い撃ちする新コロナ 大阪府 佐々木雅博
晩酌の前に牛乳飲む習い 鳥取県 大久保禮吉

各県本部の「不屈」から

自粛ムードの中でも引き続き国会請願署名と市民運動の進展を
岡山県美作支部 中西 孝
新型コロナ・ウイルスの感染拡大の中で何かと自粛ムードが高まっています。
国会請願行動も秋に延期と聞きました。
美作支部は「今年こそ目標達成を」とラストスパートに入ったところでしたが、「延期」と聞いてえつ、助かった。の思いがしました。
しかし、これは「危険」なことです。署名の取り組みは自粛するわけにはいきません。
支部役員会は、残りの日数が増えたことから手分けして友誼団体への再々要請の訪問活動をして、必ず目標を達成しようと思つた。
また、毎年恒例の総がかり実行委員会による「津山さくら祭りサイレントスタンディング行動」の成功のために治安維持法同盟もその一翼を担って奮闘します。

この論文の表題は「『治安維持法の体制』による国の責任に決着をつけよう」です。

③新コロナ対策を進めながら工夫し行動して請願署名をすすめる、紹介議員150人を目指し、それに見合った署名の拡大を実現する。このことを提起しています。

九二〇年代の侵略戦争と人権抑圧の政治に対して、青年・学生・労働者・農民の分野での一世紀にわたる「世直し」の闘いを、特に3・15、4・16弾圧後の不屈の闘いが、日本国憲法として結実するまでを分析しています。

しかし、現在この「世直し」運動を阻む勢力が「戦争する国づくり」を進めているなかで、同盟は今何を目指して活動するのか。

論文では、①正しい歴史認識に立って学習すること、そして行動すること。②安倍政権を打倒し、野党連合政権

を実現する市民と野党の共同の発展に貢献する。そのため早期に二万人の同盟を建設

この論文を学習の手引きとし、全会員の必読論文に。支部で討議して、諸課題を実現するために会員ひとり一人が奮闘することを提起しています 矢島恒夫

増本一彦「2020年代に国会請願要求を実現して『治安維持法体制』による国の責任に決着をつけよう」を読んで『治安維持法と現代』2020年春季号No.39掲載

稿を読んだ感想のまとめとして、強く感じました。

(埼玉県本部長)

《寄贈図書紹介》

「評伝小説岩田義道その愛と死の記念塔」平井利果著 風貌社刊 定価1300円+税

「横村浩が歌っている」藤原義一著 飛鳥出版室刊 定価2000円+税

【県本部住所移転】

京都府本部 〒604-1883

京都市中京区壬生下溝町51-41 ☎0901857519851

【訂正】

本紙4月号、5ページ「北から南から」欄の「飯島恵子さん」は鍋島啓子さん、「柳原智さん」は柳原知さんに訂正します。

同「6議員に6000筆を」の記事中の議員は「高橋千鶴子、岩淵友」に訂正いたします。関係するみなさんに心よりお詫びいたします。

事務局日誌

4月7日 「不屈」編集会議
4月15日 都本部三役会議
4月27日 「不屈」編集会議

2020年春季号

『治安維持法と現代』

発売中

治安維持法と現代



治安維持法と現代を結ぶ運動理論誌

[主な内容] 巻頭2020年代に国会請願要求を実現して「治安維持法体制」による国の責任に決着をつけよう=増本一彦★国家賠償法を求める請願の19年度紹介議員一覧 [特別寄稿] 現代からみる大阪商大事件=広川禎秀/多くの在日朝鮮人が治安維持法で弾圧されたのはなぜか=水野直樹/女性史文化賞を受賞して=高橋三枝子▼ [小特集・伊藤千代子] 土屋文明詠歌再考=長野晃/ペーベル『婦人論』に学びジェンダー平等へ=藤田廣登 [抵抗の群像] 岩田義道のデスマスクと共に=阿部淑子の闘いと生涯=飯田勇/日本と「満州」で弾圧された情野義秀=後藤太刀味/旧制山形高校社研のたたかい=佐藤光康ほか

A5判 頒価1000円 申し込みは、中央本部 各都道府県本部へ